

江野澤 よしかつ えのさわ吉克県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13 電話043(227)7411

河川の堆積土砂

民間への採取許可求め!

駅前都市計画道路 7月から供用開始

県議3期目の半ばを迎え、充実した議会活動を展開する袖ヶ浦市選出の江野澤吉克議員は、6月26日に開かれた定例会議の一般質問に登壇しました。江野澤議員は、袖ヶ浦駅前都市計画道路・高須箕和田線のアンダーパスが7月18日に供用開始される見通しとなつ

高須箕和田線

江野澤議員 私の地元袖ヶ浦市では、袖ヶ浦駅の海側で土地区画整理事業により、駅前広場や区画道路などの基盤整備が進み、新たな市街地ができておりますが、J.R内房線により、従来の市街地と分断されているという課題があります。そのため、この分断を解消するアンダーパスを含む都

市計画道路高須箕和田線を整備していただいておりますが、本年度に供用の予定と聞いていますが、高須箕和田線の供用の見通しはどうか。
県土整備部長 高須箕和田線は、J.R内房線で分断されている袖ヶ浦市街地と袖ヶ浦駅海側土地区画整理区域とをアンダーパスでつなぎ、袖ヶ浦駅周辺の活性



本会議場で質問する江野澤県議

たことや、河川の堆積土砂の撤去に、県が民間事業者の参入を検討していることなどの新たな答弁を引き出しました。また、有害鳥獣被害では、イノシシが市街地に出没するなど「もはや災害レベル」などと強く訴え、捕獲の担い手を増やすための対策などを求めました。

化に大きく寄与する都市計画道路です。
現在、本体工事が概ね完了し、付帯する側道の整備や標識設置等を実施しているところであり、来る7月18日に供用開始の予定となっております。

西内河根場線も着手

江野澤議員 高須箕和田線に接続し、アクアラインの着岸地である金田地区につながる都市計画道路西内河根場線及び中野畑沢線の未整備区間について、今後の事業着手はどうか。
県土整備部長 西内河根場線及び中野畑沢線は、7月に供用予定の高須箕和田線と接続し、袖ヶ浦駅周辺

地区から木更津市金田地区を経て、東京湾アクアラインにつながる重要な道路です。本路線は、地元市である

土砂撤去で河川機能維持を

袖ヶ浦市や木更津市に先行して調査設計を行っていたところと見られます。県としては、地元への事業説明会を実施し、本年9月頃から事業に着手する予定としております。
今後ともアクアライン接岸地周辺の道路整備について、さらなる協力をお願いします。

江野澤議員 近年、全国各地で豪雨による洪水被害が頻発していることから、いつ千葉県で発生してもおかしくなく、危機感が強まるばかりです。こうした中、県内でも土砂の堆積が進行している河川が見受けられます。財政事情が厳しい中、効率よく、適切な河川の機能維持を行うことが重要な課題だと認識しています。そこで伺います。河川の機能維持に向け、堆積土砂の撤去等をどのように行っているのか。
県土整備部長 県では、定期的な巡視や出水後のパトロールにより、緊急性、

有効性を踏まえ、優先度の高い箇所から堆積土砂の掘削を行っているところです。小櫃川でも、今年度掘削を行うこととしており、掘削した土砂については、近隣の公共事業で活用することで、

民生活導入を検討

江野澤議員 河川に堆積している砂や砂利は、有効な資源となることから、これを民間が採取すれば、眠っている資源を有効活用することができると考えます。併せて、県が本来行うべき河川の機能維持にも大いに寄与できるものと考えます。河川の機能維持のため、民間に土砂採取許可を与えるべきと考えるがどうか。
県土整備部長 過去に県内で、河川内の土砂採取を許可した際、採取箇所付近で水難事故が発生したことや、河口部周辺海域に対する配慮などから、平成2年度以降、許可を認めない状況にあります。



堆積土砂で川幅が狭くなっている小櫃川

県では、撤去予定箇所と民間の採取希望箇所が一致し、河口部を含む河川環境への影響、河川利用者との調整などの条件が整うのであれば、民間活力の導入は有効であると考えます。このことから、今後、国や他県の事例等も参考にしながら、必要となる採取の基準や、指導・監督体制の整備、公平性、透明性の確保等について、検討を行ってまいります。
安全な河川管理を目指し、民間との協力をさらに強固なものにし、河川の安全管理に努めていただくよう要望します。

有害鳥獣被害

「もはや災害レベル」と訴え!

6月県議会一般質問に登壇



自席から再質問する江野澤議員

江野澤議員 イノシシなどの有害鳥獣は、生息数が増加し、生息区域も拡大しています。市町村による捕獲に県も支援していますが、旺盛な繁殖力に、捕獲が追いついていないのが実情です。農作物への被害などは、もはや災害レベルにあり、非常に深刻な問題です。県は、有害鳥獣の捕獲の担い手の確保や捕獲技術の向上に、どのように取り組んでいるのか。

森田知事 県では、有害鳥獣の捕獲の担い手を確保するため、本年3月、女性や若者などを対象に「新人ハンター入門セミナー」を開催しました。このセミナーでは、先輩ハンターとの交流や狩猟模擬体験を通じて、狩猟の魅力を伝えたとところで

市街地にも出没

また、ワナによる捕獲技術の向上を図るため、市町村の有害鳥獣捕獲員を対象とした研修会を実施するとともに、ワナの設置場所選定のポイントや捕獲の手順等を分かりやすく解説した「イノシシ・ニホンジカ捕獲マニュアル」を作成し、研修受講者や市町村等に配布しました。

江野澤議員 近年、イノシシによる市街地や住宅地などへの出没事例が報道されるようになってきました。私自身も、事務所の近くで車を運転中に、2頭のイノシシに衝突されてしまいました。市街地にイノシシが出没した場合に備える必要があると思うがどうか。

森田知事 イノシシが市街地に出没した場合には、住民、地元自治体、警察、狩猟関係者等が連携して対応する必要があります。このためには、目撃から

各地域において、緊急時の連絡体制を構築するとともに、安全確保の方法や捕獲における役割分担などについて、関係者間で共有することが重要です。そこで県では、今年度、連絡体制の構築に当たっての留意点や出没した場合に取るべき対処方法などを記載したマニュアルを作成することとしています。

アカデミアの土地利用

江野澤議員 アカデミアの料金引き下げや圏央道等の交通インフラの整備進展により、かずさアカデミアパークの立地優位性が格段に高まっていますが、立地が決まっても建設工事が始まらない未利用区画がパーク内での顕在化しています。とりわけ、富士通が所有する土地は、平成4年の土地協定締結後、長年にわたって未利用の状態が継続しており、パーク内の産業集積が進まない要因となっています。パーク内の富士通所有地について、県は今後どのように対処していくのか。

商工労働部長 富士通の所有地は、パーク内の中心的な場所に位置した約30ヘクタールの広大な土地であり、パーク全体の活性化や魅力向上を図るためにも、その利活用を促していくことは、大変重要と認識しています。

江野澤議員 このため県では、富士通に対して土地の早期利活用を働きかけており、同社からは、環境保全の遵守や権利義務の承継等を定めた立地協定も踏まえながら、「他社への売却も含めた利活用の方策を検討中」との回答を得ているところです。県としても、引き続き今後の成長が見込まれる健康・医療分野等への誘致拡大などを定めた基本方針に基づき、地元市と連携を図りながら、富士通未利用地の早期解消に努めてまいります。

医療分野との連携

江野澤議員 かずさDNA研究所と千葉県がんセンターとの連携について、その取り組み状況はどうか。また、こうした取り組みを支援していくべきと思うがどうか。

商工労働部長 近年、かずさDNA研究所では、これまでの基礎研究で得られた研究成果や高い技術力を、応用・実用化へつなげる取り組みに重点を置いており、特に医療分野における遺伝子解析の取り組みが進展しています。こうした中、本年1月にはかずさDNA研究所と千葉県がんセンターは、互いの得意分野を生かした共同研究

富士通

他社への売却も検討中

要望 今後、キヨンの有害捕獲に当たって、空気銃が使用できるようご検討いただくと要望します。

警察本部長 自転車の交通指導取り締まり状況は、平成28年度中の取り締まり件数は45件、指導警告件数は3万6779件。平成29年5月末現在の取り締まり件数は23件、指導警告件数は2万465件です。また、危険行為登録状況ですが、自転車運転者講習制度が始まった平成27年6月1日から本年5月末までの2年間で、156件を登録したところです。引き続き、自転車利用者に対する取り締まりと指導警告を強化し、法令順守とマナーの向上を図ってまいります。

自転車の安全利用

江野澤議員 平成28年度及び29年度5月末における自転車の交通指導取り締まり状況はどうか。

要望 今後も、DNA研究所が広く社会に貢献していくためにも、研究者が流出しないよう、安心して研究に打ち込めるよう、県においてもしっかりと支援していただくよう、強く要望します。

●袖ヶ浦市と県政に関するご要望をお寄せください。

えのさわ吉克 県事務所

〒299-0236 袖ヶ浦市横田413-9 TEL.0438-75-8881 FAX.0438-75-8882